

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「東急ストア、IoTデバイスを利用したレシピ配信サービス実施」
- 2) 「サナギ新宿がオープン、高架下でアートな夜を過ごす」
- 3) 「“0円マーケット” 松戸で25日に開催 “お金に頼らない選択肢を”」

1) 「東急ストア、IoTデバイスを利用したレシピ配信サービス実施」

東京急行電鉄株式会社、株式会社アクアビットスパイラルズおよび株式会社NHKエデュケーショナルは、12月19日（月）から東急ストア中目黒本店において、NHKエデュケーショナルが提供するレシピサービス「みんなのきょうの料理」と連動したレシピ配信サービス「かざしてレシピ」のテストマーケティングを実施する。

同サービスは、スーパーマーケットでの新たな購買体験の提供を目的に実施するもので、アクアビットスパイラルズのIoTデバイス「スマートプレート」を各商品の売り場に設置し、来店客がスマートフォンなどのNFC対応機器をかざすと、「みんなのきょうの料理」に掲載されている食材やテーマに沿ったレシピ情報を来店客のスマートフォンに配信するものだ。

設置された「スマートプレート」は、遠隔で提供するレシピ情報の設定変更やアクセス状況などのモニタリングをすることができ、蓄積されたアクセスデータにより、顧客動向の可視化が実現する。同サービスにより、レシピ情報をはじめとしたさまざまなものを紙からデジタルに転換することで、コスト・環境負荷の低減を実現するとともに、「食」に関するさまざまな情報提供が可能となる。

今回のテストマーケティングの結果を基に、同サービスの事業化を検討していく。

売場でレシピの提案や詳細がみれるのは嬉しいサービスだが、スマホを使うとなるとどうしても目線が下におち、店内に目が行かなくなるなど安全面でも不安がありそうだ。しかし、紙のPOPだとその場でレシピを暗記して商品を探すのも難しいと言える。レシピを見ながら店内を回遊でき、目線も広く保たれるようなサービスがあればいいと感じた。

2) 「サナギ新宿がオープン、高架下でアートな夜を過ごす」

新宿駅の高架下にフード&イベントスペース、サナギ 新宿が12月9日（金）にオープン。新旧のビルが混在し、様々な国籍の人々が行き交う「新宿」という街を表現したという、カラフルで無国籍な雰囲気漂う場所だ。オープン前夜にはLICAXXX、テンテンコ、DEADKEBAB&PSYCHICSら若手アーティストによるライブやDJパフォーマンスが行われた。

フードコート前方には、ライブスペースやDJブースが設けられ、食事を楽しみながらパフォーマンスが眺められる。

同スペースは、4つの飲食店が立ち並び屋台風のフードスペース、ギャラリー、屋外のイベントスペースなどに分かれており、様々な楽しみ方ができる。

アジアの屋台をイメージしたフードコートには、タイ風のローストチキンなどが味わえる、ロティサリー&サテ屋台「炎のガイヤーン」、マラーヌードルや蒸籠の蒸し寿司などが味

わえる、点心&ヌードルバー「点心爛漫」、おでんとロール寿司が揃う「こちらTOKYO CALLING」、酒の肴になる野菜中心のメニューが味わえる「緑黄色人種」の4店が並び。今後サナギ新宿では、次世代のアーティストをフィーチャーする音楽イベントや展示を定期的に開催していく。

12月16日（金）には、2013年に即興演奏のグループとしてスタートし、現在ソロ名義「ALBINO SOUND」として活動する梅谷裕貴、東京を拠点に活躍するバンド「D.A.N」の桜木大悟のDJパフォーマンスが予定されている。新宿の新たなカルチャー発信の場としての展開が楽しみだ。

新宿の高架下という立地にマッチした面白いスペースになるのではないかと感じた。あえて洗練されたオシャレな空間ではなくカオスな独特な世界観の店内作りにも場所柄合っている気がする。イベントスペースやクリエイターが手がけた空間などが良いエッセンスとなっており、空間作りによって食の楽しみ方が変わって来ることを改めて感じた。

3) 「“0円マーケット” 松戸で25日に開催 “お金に頼らない選択肢を”」

家庭で使っていない食器などを持ち込み、欲しい物を無料で持ち帰ることができる「0円マーケット」が25日、松戸市のまつど市民活動サポートセンターでオープンする。「0円」で楽しめる映画上映会や食堂、講座も開かれる。物には値段があり、売買で手に入れるという「常識」から離れ、暮らしや地域を見つめ直そうという試み。一風変わったイベントで、クリスマスプレゼントを探してみても一。

マーケットは正午-午後4時。午前11時半以降、家具や食器、衣類、電化製品、食品などを持ち込む。ただし、壊れたり、汚れて使えないものは対象外。持ち込むだけ、持ち帰るだけでもよく、もらい手がいなかった場合は、持ち込んだ人が引き取る。

上映会は午後1時から。米国サンフランシスコなど三都市で、住民が空き地を畑に変えるなど、食の問題に取り組む草の根運動を追ったドキュメンタリー映画「都市を耕す エディブル・シティ」を上映する。食堂は正午-午後3時半で、メニューはカレーの予定。午後2時半からの講座では和紙を折りたたんで染め、模様を楽しむことができる。

マーケットは、松戸市などでホームレスの生活再建を支援するNPO法人「ディープデモクラシー・センター」（富津市）が、市民団体や個人と実行委員会をつくり、企画した。

同センター副代表理事の加納基成さん（51）は「地域にお金に頼らない選択肢ができることで、地域に弾力性が生まれ、セーフティーネットになっていく」と話す。少子高齢化などにより、お金に裏付けされたサービスや制度だけでは、問題を解決できない地域が増える将来を見通し、その備えとしてこのイベントを企画したという。

当面は年四回ほど開催していく。加納さんは「お金に頼らない壮大な実験だと思っている。ぜひ参加してほしい」と呼び掛ける。

持ち込みの事前連絡は不要。次回は3月を予定。実行委メンバーも募集している。

不要な物が新たな持ち主の手に渡るということではじめはエコの観点が大きいのかと思ったが、「お金に頼らない選択肢」がテーマというのはまた違う気づきを得られる。最近、若者の貧困層の増加や定職に付けなかった就職氷河期世代の人たちが高齢になったときに起こる問題などのニュースを目にしたが、このようなセーフティーネットがあるということはとても大きな役割を果たすだろう。もちろんそれ以外にも地域のコミュニティスペースになるので、是非スーパーの敷地内でこのようなイベントをしてみてもどうかと思った。